

水晶岳・鷲羽岳・黒部五郎岳

2014.9.10~13 3名で

日本百名山挑戦中の松本市のFさんのサポートでFさんの知人で夫婦で百名山完登達成されたTさんの3名で折立から入・下山するコースで百名山3座を効率よく歩いて来ました。最終日が予想通り長時間になりましたが、高齢にもかかわらず歩き通したFさんには驚きすら感じました。残り20座です、頑張ってください。4日間好天に恵まれて素晴らしい大展望を堪能しました。私にとっても、冥土の土産になりました。

9/10 (水) 晴れ 松本市 4:30~ (安房トンネル経由。156KM) 7:30

折立 7:45~12:30 太郎平小屋 (昼) 13:10~15:50 薬師沢小屋 (泊)

9/11 (木) 晴れ 5:00~8:00 木道~8:45 アラスカ庭園 8:50~

10:50 スイス庭園 11:00~13:00 祖父岳 13:10~15:20 水晶小屋 (泊)

9/12 (金) 晴れ 4:45~5:35 水晶岳 6:00~6:35 水晶小屋 (朝食)

7:25~9:20 鷲羽岳 9:50~11:15 三俣山荘 (昼) 12:05~15:30

黒部五郎小舎 (泊)

9/13 (土) 快晴のち曇り 4:40~8:00 黒部五郎岳 8:15~10:30 中

俣乗越~ 11:30 赤木岳~13:05 北ノ俣岳 13:10~15:10 太郎平

小屋 15:30~17:40 三角点 (1870M) ~19:20 折立 19:30~

20:00 ゲート～立山IC・糸魚川・白馬経由～23:35 松本（解散）

10日は早朝出発。飛越新道登山口を6:45に通過し、3時間で折立駐車場に到着。7月下旬に往復雨の中を歩いた太郎平への登山道を登る。今日は好天で気持ちが良い。太郎平小屋（このグループはサービス精神が良い）で昼食、ポットのお茶と湯のみ茶碗が置いてある。「ご自由にお飲みください」との貼り紙がある。北アルプスの営利主義の小屋が多い中では異色だ。

太郎平小屋の湯茶のサービス



太郎兵衛平



小屋の通過者の雨宿り用だと推測するが、げや（小屋の外に屋根を出して、雨宿りや食事ができるようにテーブルと椅子が置いてある）を造ってある。前回は往復雨で通過したので気が付かなかったが。3回目の宿泊になる薬師沢小屋に到着。此处は寝床が広くて使いかたが良い好きな小屋だ。此处と高天原山荘・すご乗越小屋も太郎平小屋グループである。11日は自炊室で早飯食べて出発。すぐ雲の平へのほぼ一直線の急坂の登りである。

雲の平への急坂を登る同行者



大石がゴロゴロした蓼科山登山道に似た登山道である。木道が現れるとほぼ平らな道が続く。アラスカ庭園・奥日本庭園・ギリシャ庭園・スイス庭園と続くが特段違いは感じない。雲の平キャンプ場経由の道は「植生回復」の名目で通行禁止になっているが、雲の平山荘名での掲示だ。お蔭でグルット大回りさせられるので時間がかかる

ようになった。雪渓が遅くまで残る箇所では、夏の花がまだ沢山咲いている。種類も多い。かえって「植生」が心配であると感じたが、目は楽しませてもらった。

雲の平からの水晶岳は雄大



スイス庭園では虹が、右は赤牛岳、下は高天原



私のような名の「祖父岳」を超えて黒部源流の「ワリモ北分岐」で水の補給の為に少し下る。正に黒部最源流の水である。

此処で昨日薬師沢小屋で同宿で会話をした元気な70歳過ぎの方に会う。健脚者にしては遅いので聞くと、「A沢に用事があったて寄って来た」との事。私はすぐピント来たので、「梯子から落ちて亡くなった方の件ですか？」と聞くとそうだと返事。実は私が7月に「北アルプス全一般登山道踏破」に向けて残った未踏区間の「大東新道」を調べていて昨年7月の、その遭難死を知った。「山と溪谷」誌にも掲載されていた。その時の同行者に違いない。1年忌で線香を上げに来たのだろう。彼の心中を思うと別れる時に「お気をつけて」としか言葉が無かった。水晶小屋の手前にはイブキジャコウソウが沢山咲いていた。特筆物だ。アポイ岳はこれ以上に多かったが。

イブキジャコウソウ



ヨツバシオガマとウサギギク



2回目の水晶小屋泊りであるが、このグループ（三俣山荘・雲の平小屋・水晶小屋。オーナーは伊藤正一氏）に泊まった時には悪い印象しか無い。案の定、布団割の事で一言言いに来た。太郎平小屋や種池山荘グループとは大違い。一例を記すと、7年ほど前に雲の平小屋に泊まった時に、宿泊料が事前

に調べた（HP含めて）金額より500円高かったので、聞くと「水晶小屋を建て直したので」との事。そんな勝手な事は世間では認められない事だ。ついでに記すと、缶ビール350mlが何と650円と北アルプスでも格別に高い。12日はFさんと2人で暗い内から歩き水晶岳へ。私にとっては、百名山の時・読売新道を下った時と3回目の登頂になる。

水晶岳山頂から黒部五郎岳カールの朝焼け



水晶岳山頂



白山まで展望出来た。登山道には霜柱があり冷え込んで少し寒かった。そして鷲羽岳を超えて三俣山荘で昼食。残雪の残る巻き道を通った先の登山道脇に「ミヤマアケボノソウ」が咲いているのをFさんが発見する。（Fさんは高山植物にはとても詳しい方です）その近辺を探すと、道の上部にも、下部にもアチコチで群生している。見かける事の少ない花なので感激する。

ミヤマアケボノソウ



ミヤマアキノキリンソウ



7月に通った時は気が付かなかった。まだつぼみの物も多い。

今年は残雪が遅くまで残り、低温が続いたので、今回の山行中には何か所かのお花畑で夏の花である、ミヤマダイコンソウ・ハクサンイチゲ・オトギリソウ・ハクサンフウロ・ヨツバシオガマ・タテヤマリンドウ・オンタデ・イワツメクサなどがまだ咲いているのを見た。

イワツメクサ



ハクサンイチゲ



チングルマの実



キヌガサソウの実



黒部五郎小舎は一部屋貸切状態で快適。談話室には早くもストーブが点火していた（まだ寒くは無いのに）。お湯割りのお湯を頼んだら気持ちよくポットまで出してくれた。夕食のおかずも豪勢だった。このグループも良心的だ。

（鏡平山荘・わさび平小屋・双六小屋と此処）13日は長丁場なので、弁当を暗い内に食べて、ヘッドランプで出発する。黒部五郎岳のカールは残雪が少なくなって迫力は無くなったが立派なカールである。私は10本の指に入れるべき名山だと思っている。今山行で百名山3座目の山頂に立ったFさんは360度の大展望も含めて感慨深そうだった。

今山行3座目の百名山で感慨深いFさん。右水晶岳・左赤牛岳、手前は雲の平



赤木山～北ノ又岳間では熊が登山道から駆け下りて行った。ガスが出始めてきた登山道を太郎平～折立目指して長い下山が始まる。このコースタイムは厳しいと思う。

本来なら太郎平小屋泊であろうが、3連休の混む時期だし、ヘッドランプ覚悟で下山する事にする。三角点通過時点で時間的に大丈夫と思ったが、矢張りヘッドランプでかつ滑りやすい登山道に手こずり、やっとの事でギリギリ、有峰林道の通行可能時間である 20:00 にゲートに着いた。それにしても持久力のある健脚なお二人で脱帽でした。好天に恵まれて、大展望を堪能し(少しでも軽くて持参しなかった一眼レフカメラが残念、展示会顔負けの写真が撮れたのに)、予期せぬ高山植物にも癒され、時間に追われた最終日の後半を除いて素晴らしい山行でした。

鷲羽池・硫黄岳・槍・穂高



黒部源流と黒部五郎岳



Fさんの見た花のメモ～タテヤマリンドウ（白咲きもあり）、イワショウブ（白～紅～赤い実）、ヨツバシオガマ、ネバリノギラン、ヤマハハコ、イワカガミ、キヌガサソウ、ゴゼンタチバナ（実）、ミヤマリンドウ、オンダテ、ウサギギク、ハクサンフウロ、タカネコウゾリナ、

イブキジャコウソウ、タカネヤハズハハコ、ベニバナイチゴ、ミネヤナギ、
オオバタケシマラン（赤い実に）、チングルマ（花～実に）、タカネヨモギ、

イワギキョウ



イワギキョウ、イワツメクサ、ミヤマキンバイ、ミヤマダイコンソウ、ミヤマアキノキリンソウ、ミヤマアケボノソウ、ミヤマコゴメグサ、トウヤクリンドウ、シラタマノキ、モミジカラマツ、イワベンケイ（終わり）、オオヒョウタンボク、チョウノスケソウ（終わり）、コタヌキラン